

夜八時以八左馬の形名に札入仕及打擲之と隠宅に引
連及打擲致氣致お果は後八左馬の貴祖父隠居河津
鉄匠師より之左馬の上中守り有八左馬の相支配世話扱
之者に早建中連の不去に之日為兄の左京年月數長
井右馬の海陸集人我紙の右之左馬の中守り右八左馬の
依之左馬の方日同兵仕我立の老の依之月時辰入少陸重
中以上

十月七日

駒本根大日記

天保二年
卯正月内密札

一 振夷地之内と書し新渡津に依り札に若七ヶ年以迄同率
六月下旬以テリモ岬を過ぐ申取波集重ホ口イツニ持場之内
アブラコト申不申小門あり書集重新有下取松高六
七人上陸し多一之節書人或人夫入拾入余拵合し不火打
道具本端取来少々持来先出水を取来領内取来均左
河杯焚後松子に取見くは右左通一不中終之書
家より河を介何るも書し何をきし名もあを先書し申取
に立戻りし月あり河を、多一中右取を果し何方へ
我紙の右申取来先取入出渡しと場不見廻り替取治